

令和4年度 地方創生事業の実績

	事業名	事業内容	KPI (R4年度)	実績	R4年度事業効果	評価
地方創生推進交付金	誰一人取り残さない子育て環境の整備に向けた実証実験	<p>保育所を利用していない家庭、移住してきたため近くに親戚や知り合いがない家庭、障がい児を育てている家庭など地域全体で見れば決して多数派とは言えない家庭についても必要な施策を実験的に講じることにより、その需要の大きさや効果を検証するとともに令和7年度に開設検討をしている子育ての総合拠点（子育て世代包括支援センター）において実施する事業内容に反映させる。真鶴らしい、小さな町ならではの「一人一人に寄り添う子育てケア」を実現するため各事業を実証実験として検証・推進する中でSDGsの理念に基づく「誰一人取り残さない」子育て施策を形成していく。</p> <p>(1) 一人一人に寄り添う子育てケアの構築 一時保育事業と子育て相談事業（一時保育場所での相談+訪問相談）を連動させた子育てケア事業を実施する。保育所を利用していない家庭や近年増加している親類縁者が地元にはない移住者家族等、一時的な預け先や子育ての悩みに困っている家庭に寄り添う支援を推進する。</p> <p>(2) 子育て学級の推進 子育てについて考え学習する場や不安を抱えがちな子育て世代の交流の場を設けるため、子育て学級事業を実施する。</p> <p>(3) 誰一人取り残さない保育の推進 全ての保育園児が障がいの有無によって分け隔てられることなく保育所サービスを受けることができるようにするため、発育・発達上の配慮を要する児童又は障がい有する児童（要保護児童）に対応する専門保育士を雇用する保育園への支援を実施する。</p>	①教育プログラム参加者の経年増加率10%/年 ※R4は基準年のため目標値なし ②公民連携事業による課題解決件数1件	<p>(1) 一人一人に寄り添う子育てケアの構築 【予算額】 1,552,000円 【執行額】 1,397,928円 一時預かり登録者14名（利用者12名） 利用実績 98回 284時間 アンケート回収9件 大変満足7件 満足2件 また利用したい9件 アンケートを通して、一時預かり事業の需要が高いことが伺えた。環境を整備して、今後もニーズに応えられるように支援していきたい。</p> <p>(2) 子育て学級の推進 【予算額】 50,000円 【執行額】 40,700円 子育て世代の情報交換や交流の場として子育て学級を7講座企画（うち2講座はコロナ禍により中止） ①親子リトミック教室(6/26(日)開催、18名参加) ②親子わらべ歌教室（7/15(金)開催、14名参加) ③親子わらべ歌教室(10/30(日)開催、6名参加) ④親子の防災に関する講演会(11/27(日)開催、10名参加) ⑤親子リトミック教室（1/22(日)開催、22名参加） アンケート結果については、全ての回で8割を超える方が講座の内容に満足されている。</p> <p>(3) 誰一人取り残さない保育の推進 【予算額】 1,458,000円 【執行額】 1,399,598円 石田保育園に1名の保育士を加配するための補助金を交付決定。該当児童の園での活動を安全に配慮しながら支援している。</p>	<p>(1)一人一人に寄り添う子育てケアの構築に向けて、一時預かり事業を開始し、リフレッシュやボランティア活動従事等で利用があった。アンケート結果も「満足」の回答が多く得られた。真鶴に身寄りのない移住者も活用いただいており、ケア担当である保育士達と事業を検証しながら改善を図っていききたい。</p> <p>(2)子育て学級の推進 リトミック教室とわらべ歌教室については、新旧の遊びを親子で体験できる場として提供し、小さなお子様を持つ家庭同士の交流や新たなつながりを生む場となった。防災講演会については、子ども目線の防災を親が学ぶことのできる数少ない場で、万が一の際の物質的な備えと心の備えについて学ぶことができた。</p> <p>(3)専属保育士を加配することで、障害の有無によって分け隔てられない保育サービスの環境を提供することができており、引き続き効果検証していきたい。</p>	<p>【KPI達成状況】</p> <p>①教育プログラム参加者の増加率については、令和4年度を基準年とし、令和5年度実績から達成状況を評価していく。</p> <p>②公民連携事業による課題解決については、子育て・教育事業に関する事業1件、公園づくりに関する事業2件に対し補助金を交付し、行政と民間が連携した事業を3件創出した。</p> <p>③町ホームページ閲覧回数については、チャットボット機能やTwitter、LINEとの連動機能の実装も行い10,000回以上の閲覧回数増加となり、KPIを達成した。</p> <p>④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度については、新たに開始された一時預かりをはじめ好評で、参加者アンケートの結果75%が満足とKPIを達成した。</p>
	子育て世代の住まう町～真鶴町定住推進事業～	<p>真鶴町では近年様々な町民事業による芸術祭やクリエイターズキャンプ等のアート活動が活発に展開され、真鶴半島先端には洋画の大家の名前を冠した「町立中川一政美術館」が文化拠点として開設されている。また、フリーダイビング日本代表マーメイドジャパンの練習拠点でもあり生物多様性を誇る「どん深の海」や、クロマツやクスノキの巨木が豊かに生い茂り町民が畏敬の念を込めて「御林」と呼ぶ魚つき保安林があるなど大自然にも恵まれ、世界的にも貴重な貝が展示されている「町立遠藤貝類博物館」が自然を学ぶ拠点として開設されている。</p> <p>この2館に図書館と公民館を合わせた社会教育施設4館を「地域の学びの場」や「世代を超えた人と人を繋ぐ場」として総合的に地域に開き、「アート」と「自然」といった「真鶴の地域資源が育てる知識と感性の教育プログラム」を連携して構築し実施する。また、地元目線や感覚を大切にしたい教育資源の深堀りと教育人材の発掘を行い、真鶴町への愛着を育む地域学として磨き上げることを目指し、町民自身が事業参画できる公民連携スタイルで真鶴らしい教育環境を整備・推進する。</p> <p>(1) 地域資源が育む真鶴らしい教育プログラムの構築 美術館・博物館・図書館・公民館において、それぞれの館又は複数の館が共同して、町民等とも協働しながらアートや自然に関する講義やワークショップ、体験学習等のプログラムを実施する。あわせてアートや自然に関する関連図書を購入する。</p> <p>(2) 教育プログラムのブランディング 上記プログラムを磨き上げ真鶴らしい教育コンテンツとして構築するため、事業展開を写真や映像で記録し取りまとめ、新たに立ち上げるポータルサイト上において町内外に発信する。</p>	③町ホームページ閲覧回数10,000回増 ④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度70%※60%から10%増	<p>(1) 地域資源が育む真鶴らしい教育プログラムの構築 【予算額】 2,091,000円 【執行額】 1,974,582円 ①公民館・美術館連携事業（子ども陶芸教室、子ども絵画教室、公民館教室） 夏休みに予定していたが、コロナ禍により陶芸教室は11月と2月に、絵画教室は2月に時期をずらし振替開催し、公民館教室は予定していた時期に開催した。 陶芸教室：11/3、11/23、2/23開催、61名参加 絵画教室：2/18開催、27名参加 公民館教室「羊毛フェルト教室」：2/22開催、11名参加 ②成人学級（文化財との連携） 後期成人学級「北条氏との権力争いに敗れた御家人に学ぶ」（11/17、31名参加） ③中川一政美術館講座 第1回「絵画修復から見つめる中川一政の世界」（7/9、23名参加） 第2回「中川一政 額縁のふ・し・ぎ」（9/24、27名参加） 第3回ワークショップ「額縁づくりに挑戦！」（10/29、20名参加） 第4回 講座「ミュージアムについて知ろう！」（12/4、27名参加） 第5回講座「鑑賞講座～中川一政と芸術をめぐる言葉～」(2/5、31名参加) ④美術館・博物館連携事業「イノチノタネプロジェクト」 1回目ピーチコミング：11/22、2回目創作ワークショップ（1）11/19、3回目創作ワークショップ（2）11/26/参加者：（延べ人数）35名 ⑤学芸員と司書が選ぶ図書コーナーの開設 芸術や階よ教育に関する図書を購入後に配架コーナーを作成し、学芸員2名と司書が解説パネル等を作成した。 ⑥自然体験指導業務委託事業 自然子どもクラブ 「ミニ水族館を作ろう」（10/23、41名参加） 「実習船に乗って海の研究を体験しよう」（11/20、11名参加） 「お林をたんけんしよう」（1/29、16名参加） 「冬の海辺の生き物を観察しよう」（2/26、24名参加）</p> <p>(2) 教育プログラムのブランディング 【予算額】 1,171,000円 【執行額】 1,167,772円 ①社会教育プログラム宣伝・広告事業 「教育の魅力化推進事業計画～社会教育～」の基づく特色ある社会教育施設の連携事業について、宣伝素材を制作してJR駅構内への掲出やSNSやインターネットへの掲載を行い、社会教育施設への誘客を図った。 ②社会教育プログラム映像等制作委託事業 真鶴の社会教育の特徴である社会教育施設同士の連携事業の様子を写真や映像に記録し、魅力ある社会教育事業の周知に活用した。 ③社会教育プログラム広報用冊子制作事業 真鶴の社会教育の特徴である社会教育施設同士の連携事業の様子を冊子にまとめ、魅力ある社会事業の周知に活用した。</p>	<p>小さな町に公民館、図書館、美術館、博物館がある恵まれた教育環境を活かし、各施設が連携することで、教育的価値を高めることができた。また、こうした事業の様子を映像や冊子に記録として残すことで、真鶴の社会教育の特徴であり、魅力でもある社会教育施設同士の連携により学びを深めることのできる教育環境があるという武器を発信することができた。</p>	<p>【結果】</p> <p>① -</p> <p>②公民協働事業による課題解決 ・子育て・教育に関する地域課題解決事業補助金 採択1件 ・公園づくりに関する地域課題解決事業補助金 採択2件</p> <p>③ホームページ閲覧回数 令和3年度 123,179回 令和4年度 155,600回</p> <p>④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度 75%</p>

令和4年度 地方創生事業の実績

事業名		事業内容	KPI (R4年度)	実績	R4年度事業効果	評価
地方創生推進交付金	子育て世代の住まう町～真鶴町定住推進事業～	<p>町民や町内事業者、サテライトオフィス進出企業等の「民間の力」と協働して地域課題解決型事業を実施し、課題解決と共に真鶴町の創生を担う人材・主体の育成・活性化を実現していく。</p> <p>(1) 公民連携による子育て・教育事業の推進 サテライトオフィス進出企業等町内事業者と協働して、真鶴町民がこれまで出会うことができなかった教育コンテンツ（子ども向けのロボットやプログラミング、ドローン、デジタル作曲に関する体験プログラム等）の開発等、子育てや教育分野における課題解決や可能性追求を図ることができるとする事業を実施する。</p> <p>(2) 公民連携による公園づくり 子育て環境の整備に向けて、町内にある都市公園や展望公園、児童公園等の公園の利活用や魅力化向上（DIYによる遊び場づくりや新しい遊び方の開発、プレーパークやマーケットの開催といった新しい利活用等）を、町民等と協働して推進する。</p> <p>(3) デジタルプラットフォームの活用 事業を協働で推進するデジタルプラットフォームを整備し、町民等からの意見・アイデア募集、双方向型の意見交換、事業進捗の見える化を行うことができる情報発信等を実施し、協働推進者の輪を広げ共創する環境を醸成する。</p>	<p>①教育プログラム参加者の経年増加率10%/年 ※R4は基準年のため目標値なし</p> <p>②公民連携事業による課題解決件数1件</p> <p>③町ホームページ閲覧回数10,000回増</p> <p>④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度70%※60%から10%増</p>	<p>(1) 公民連携による子育て・教育事業の推進 【予算額】1,243,000円 【執行額】798,000円 子育てや教育分野の課題解決に資する事業を募集し、補助金を交付した。 ①真鶴こども未来カレッジ ・美容業界やその仕事について解説、職業体験等</p> <p>(2) 公民連携による公園づくり 【予算額】500,000円 【執行額】500,000円 町内の公園利活用に資する事業を募集し、補助金を交付した。 ①Manazuru Glocal Park【交付額】280,680円 ICUの留学生との交流イベントを実施。多文化共生を楽しめる公園づくりに取り組む。 ・R4.10/30 参加者15名程度 @荒井城址公園 絵本読み聞かせ、海外版だるまさんが転んだ、ボール遊び、3分お絵描き等 ・R4.11/27 参加者30名程度 @荒井城址公園 ウクライナのプレスレット作り、バナナ鬼、シャボン玉遊び等 ・R4.12.18 参加者60名程度 @お林展望公園 まなぶる青空キッチンと共催でDIYワークショップ等</p> <p>②まなぶる青空キッチン【交付額】219,320円 お林展望公園に新たな活用方法創出を目指し、バーベキュー場を活用した食イベントを実施 ・R5.3.5 参加者156名（大人85名子ども71名）</p> <p>(3) デジタルプラットフォームの活用 【予算額】1,265,000円 【執行額】1,260,600円 プロポーザルにより委託事業者を選定し、子育て・教育事業及び公園づくり事業に関する情報が集約されたデジタルプラットフォームを稼働させた。 業実施団体のインタビュー記事と3事業の内容、既に実施した事業報告等の記事を掲載し、公民協働事業の応援推進を行っている。</p>	<p>子育て・教育の地域課題解決に1件、公園づくりに2件の民間主体事業が立ち上がり、いずれも盛況で、地域の子供たちにとって新たな体験となり、継続の価値があるものとなった。 デジタルプラットフォームを整備したことにより、町HPでの告知と違い他の広報に埋もれることなく分野に特化した広報や一つの事業に対してきめ細かな進捗・結果報告を分かりやすく行うことができ、真鶴町の子育て・教育事業及び公園づくり事業への取り組みを広く周知する仕組みが構築できた。 また、本デジタルプラットフォームが真鶴町の子育て・教育事業等に関するアーカイブの役割を果たしていくことも期待できる。</p>	<p>【KPI達成状況】</p> <p>①教育プログラム参加者の増加率については、令和4年度を基準年とし、令和5年度実績から達成状況を評価していく。</p> <p>②公民連携事業による課題解決については、子育て・教育事業に関する事業1件、公園づくりに関する事業2件に対し補助金を交付し、行政と民間が連携した事業を3件創出した。</p> <p>③町ホームページ閲覧回数については、チャットボット機能やTwitter、LINEとの連動機能の実装も行い10,000回以上の閲覧回数増加となり、KPIを達成した。</p> <p>④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度については、新たに開始された一時預かりをはじめ好評で、参加者アンケートの結果75%が満足とKPIを達成した。</p>
	情報発信力の強化	<p>上記の3事業を中心とした真鶴町の定住施策の見える化やプロモーションを図るため、次の事業を行い広報力の強化・多様化を実施する。</p> <p>(1) 新たな発信力による定住対策の見える化 上記事業や町の魅力をより広く発信するため、町ホームページを柱に情報発信機能を全面的にアップデートする ・町のホームページの利便性向上（チャットボット機能の導入） ・町公式Twitter及びLINEの立ち上げ、ホームページとの連動発信 ・紙面広告及びWeb広告の実施</p>	<p>① -</p> <p>②公民協働事業による課題解決 ・子育て・教育に関する地域課題解決事業補助金 採択1件 ・公園づくりに関する地域課題解決事業補助金 採択2件</p> <p>③ホームページ閲覧回数 令和3年度 123,179回 令和4年度 155,600回</p> <p>④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度 75%</p>	<p>(1) 新たな発信力による定住対策の見える化 5月20日に業務委託契約を締結し、順次広報力強化を実施している。 ホームページ利用者からの問合せに対して、ボタン等を用いて入力の手間なく必要な情報を提供するため、また、入力されたキーワードや文章に対して自動応答できるようにするため、10月1日にチャットボット機能を導入した。 また、これまで町職員によるホームページの編集は、仮想ブラウザ上で行う必要があったが、ローカル環境でも手軽に編集できるよう所要のシステム改修を行った。 さらに、Twitter及びLineの立ち上げを行い、関連するプライバシーポリシーを整備した後、1月を目途にリリースしホームページと連動させた情報発信を行っている。 また1月に、ホームページやTwitter、Lineの操作方法に加え、効果的な情報発信のための職員向け研修を実施する。 紙面広告及びWeb広告についても1月に実施し、移住定住施策の子育て世代への更なる訴求を図っていく。</p>	<p>仮想ブラウザ上で行う必要があったが、ローカル環境でも手軽に編集できるよう所要のシステム改修を行い、ホームページ編集などの作業が簡単にできるようになった。 また、チャットボット昨日の導入により検索機能が増えてはいるが、情報が不足している部分については適宜追加している。 Twitter及びLINEの立ち上げを行い、SNS発信による情報発信の強化を図っており、今後更に登録者が増えるように進めていく。 職員向け研修については、定期的な研修会を実施し、引き続き理解を深める。 紙面広告及びWeb広告についても1月に実施し、移住定住施策の子育て世代への情報発信を行った。</p>	<p>【結果】</p> <p>① -</p> <p>②公民協働事業による課題解決 ・子育て・教育に関する地域課題解決事業補助金 採択1件 ・公園づくりに関する地域課題解決事業補助金 採択2件</p> <p>③ホームページ閲覧回数 令和3年度 123,179回 令和4年度 155,600回</p> <p>④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度 75%</p>
東西地域活性化プロジェクト推進事業	<p>移住・定住の戦略的な促進</p>	<p>長期間放置された空き家の増加が全国的な社会問題となっている空き家問題について、真鶴町においても2018年実態調査の時点で空き家は568件あり、そのうち約1/4に該当する148件が周辺に悪影響を及ぼすことが懸念される特定空き家等候補となっており、空き家問題が顕在化し改善が必要となっている。 空き家を通した移住・定住の推進による課題解決に向けて、住民協働による空き家バンクの推進や地域活性化、事業を通した住民や移住者の雇用の場の創出等を目指していく。</p> <p>(1) 移住受入のための空き家利活用 移住者の受入先として活用を図るため、空き家をリノベーションするための設計や空き家バンク制度の運営を行う。</p>	<p>空き家バンク事業によるマッチング3件/年</p>	<p>(1) 移住受入のための空き家利活用 【予算額】3,300,000円【執行額】3,290,100円 令和元年度策定の「真鶴町空き家等対策計画」において把握している空き家568件を中心に、空き家所有者と空き家利活用希望者を繋げる空き家バンク制度や町のPR業務を委託した。 ・売却物件登録4件 成立3件 ・賃貸物件登録8件 成立4件 交渉2件</p>	<p>コロナ禍による暮らしの変化とテレワークの普及で「地方移住」や「2拠点生活」など、若い世代をはじめ、幅広い世代の移住者が急増しています。令和3年8月から稼働している空き家バンクも多くの問い合わせを頂き、左記のとりの物件の成立となりました。委託業者である一般社団法人真鶴未来塾の町民目録のSNSなどでの情報発信も好評である。また、4年度末に発送した固定資産税納税通知書に空き家バンクチラシを同封した。</p>	<p>【KPI達成状況】</p> <p>空き家バンク事業によるマッチングについて、空き家バンク利用登録者は年々増加し空き家の需要も高まる中、令和4年度は売却物件4件中3件成立、賃貸物件8件中4件成立交渉2件とKPIが達成されている。</p> <p>【結果】</p> <p>令和3年度 売却1件 賃貸3件 令和4年度 売却3件 賃貸4件</p>